

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月 9日現在

機関番号：32652

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2012

課題番号：21520756

研究課題名（和文） 医業と農業と慈善を結ぶ「草の根啓蒙」の実相

研究課題名（英文） Aspects of grassroots enlightenment in the English provincial town

研究代表者

坂下 史（SAKASHITA CHIKASHI）

東京女子大学・現代教養学部・教授

研究者番号：90326132

研究成果の概要(和文):本研究は、18世紀後半から19世紀前半のイギリスの地域社において、様々な公共活動に関与したローカルエリートの思想と社会的実践に光を当てた。その際、地域社会に根ざした「1.5流知識人」たちの活動、および彼らによる地域を跨いだ相互交流の諸相にとりわけ注目した。そして、医業、農業、慈善という三つの分野が相互に結びつきながら、広義の社会改良活動の一端を成していたこと、その際に「俗化した」後期啓蒙の考えが諸活動の結節点となっていたことを明らかにした。

研究成果の概要(英文): This project shed light on the public activities of the local elite in the English provincial town in the late eighteenth and early nineteenth centuries. Particular attention was paid to the activities of second-class intellectuals who had deep roots in the local community. The project clarified the point that, in several cases, seemingly different activities such as providing medical services, carrying out agricultural improvements and running public/private charities were in fact closely connected through what can be described as a series of grassroots enlightenments.

交付決定額

(金額単位：円)

|        | 直接経費      | 間接経費      | 合計        |
|--------|-----------|-----------|-----------|
| 2009年度 | 1,100,000 | 330,000   | 1,430,000 |
| 2010年度 | 600,000   | 180,000   | 780,000   |
| 2011年度 | 1,000,000 | 300,000   | 1,300,000 |
| 2012年度 | 700,000   | 210,000   | 910,000   |
| 年度     |           |           |           |
| 総計     | 3,400,000 | 1,020,000 | 4,420,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード：イギリス 思想史 啓蒙 慈善 農業 医者

### 1. 研究開始当初の背景

本研究が対象とする18世紀末から19世紀初めという時期は、イギリス史においては近代国家形成へと至る長い「改革時代」として、従来から研究者のあいだで注目を集めてきた。この時期、アメリカ独立戦争の敗北(1783年)を契機に、イギリス人のあいだでは目の

前の社会や体制に対する信頼が大きく揺らぎ、抜本的変革の必要性が差し迫ったものとして認識されるようになった。さらに、戦費の未曾有の増大が名誉革命後に登場したイギリス型の財政軍事国家の限界を露呈させつつあったことも重なり、自由主義的な国家体制への転換の道が模索されていた。こうし

たなかで、議会だけでなく、政府行政、法律、教会、医療、芸術など様々な場面で制度とモラルの改革の必要性が叫ばれ、それが実践されたのであった。

改革熱に包まれた時代の空気は、中央政府や首都ロンドンに留まらず、地域社会にも様々なかたちで広まった。しかしながら、そうした地域レベルでの改革については、先行研究では部分的に触れられている場合が多く、その多くは断片的であり、全体像が明らかにされているとはいえなかった。また、個々の改革の試みは、医学史、農業史、社会政策史などの分野で、個別にやや狭い問題関心の下で研究されがちでもあった。確かに、地域レベルでの社会改良活動については、思想史や科学史における「草の根の啓蒙」の重要性の指摘を受けて、科学史や都市史のなかで一定程度まで明らかにされていた。しかし、それらは十分とはいえない状況だった。

したがって、本研究のように地域社会において、様々な公共活動や社会改良のための運動に実際に関与したローカルエリートの思想や社会的実践に、実証的な研究手法を用いて光を当てることには、大きな意味があったといえよう。

## 2. 研究の目的

研究代表者は、それまで、主に近代イギリスの地方都市における公共政策、とりわけ救貧行政の具体相を明らかにするべく、救貧の現場で活動する特殊法人組織 (corporations of the poor) について研究してきた。その過程で、狭い意味での救貧や慈善に限定されずに、広範な公共活動に関与する地域に根差した知識人の存在が、社会改良活動の成否のカギを握ったケースが複数存在することを認識した。そして、こうした事例の一つとして、イングランド東部の中心都市ノリッジを拠点に、医業、農業、慈善を股にかけて公共活動に従事した人物 (Edward Rigby) についての実証研究を発表した。

本研究には、この研究を時間的、空間的に拡大する試みとしての性格があった。そこでは、複数の社会改良家について、プロソポグラフィの手法を念頭に研究し、それらを孤立した事例としてではなく、「改革時代」の文脈のなかに総体としておくことが本研究の最大の目的であった。これによって、ローカルな人物研究が近代国家形成史やヨーロッパ政治社会史と切り結ばれることになり、上に述べた研究史上の課題にも応えるものとなると考えたからである。

具体的には、18世紀後半から19世紀前半のイギリスで様々な公共活動に関与したローカルエリートの世界観と社会的実践に着目した。研究全体を通じて、近代国家形成期

のイギリスで公共政策や社会政策を地域社会で担った人々の活動を資料に即して浮かび上がらせることを目指したが、それは現代社会における地方自治の問題や、官民の役割分担の在り方を考える際にヒントを提供すると考えたからでもある。

実際、当時のイギリスでは、ローカルエリートが積極的に公共政策の策定や実践に寄与することで、混乱の芽がその都度ごとに摘み取られていたのであった。本研究は、こうしたローカルエリート、とりわけ公共政策の策定や実践に積極的に関与した地域の「1.5流知識人」たちの公共活動、および彼らによる地域を跨いだ相互交流の諸相に目を向けた。そして、そこでは、医業、農業、慈善という三つの分野が相互に結びつき、社会改良活動として現出してくること、その際に「俗化した」後期啓蒙の考え方が結節点を提供したことを明らかにすることに取り組んだ。

## 3. 研究の方法

ローカルエリートの公共活動の実態を明らかにするために、(1) 特定の人物 (複数) について集中的に調査し、さらに(2) 彼らの活動歴を時代文脈のなかで解釈することを念頭に、社会改革の意味をパンフレット、定期刊行物、政府関係機関の記録などを用いて研究を進めた。それは、具体的には以下のように実施された。

(1)人物研究： ノリッジの医師 Edward Rigby の活動についてより詳細な調査を行った。明らかにされていなかった彼の政治活動の詳細について、地方新聞等を利用して情報を集めた。これに加えて、医業と農業の分野での他地域のローカルエリートとの交流について情報収集した。Rigby の義弟にあたるバースの内科医兼農業改良家 Caleb Hillier Parry の活動について、伝記などの文献と新聞を含む地方文書館史料を用いて調査した。また、彼の手紙、娘が残した彼の活動についての記録も部分的にはあるが調査対象とした。

(2)改革の意味の探求： 各種パンフレットを検討し、同時に Rigby や Parry の農業関係の著作が取り上げられた雑誌 *Farmer's Magazine* の関連記事や地方新聞の全般的な調査を実施した。さらに、議会の慈善関係の特別委員会資料の調査や本会議の議事録、救貧法委員会の報告書等の政府関係機関の文書の調査も行った。

上記の(1)と(2)を組み合わせることで、地域に根差した1.5流知識人の公共活動の一面を、近代イギリス公共政策の全般的特徴とと

もに実証的なレベルで明らかにした。さらに、研究の最終年度には、ノリッジやパース以外の都市における慈善活動の状況を、比較を念頭に調査した。また、全国的なレベルの議論の推移をあわせてみるために、議会文書を用いた調査も行った。

#### 4. 研究成果

本研究は、これまで個別分野のなかでそれぞれに言及されてきた18世紀後半から19世紀前半の医療活動、農業改良、慈善活動を、社会改良という角度から、相互に密接に関係するものとして捉え直した点に大きな特色がある。広義の社会改良の試みが地域に根差した知識人によって推進されていたことを明らかにし、当時の地域社会が時代の変化に柔軟に対応する意志とダイナミズムを備えていたことを確認した。より具体的には、以下に記すような成果を得た。

##### (1) 資料収集と分析

当該時期のイギリスにおける農業改良と医療に関する文献を収集し、また Edward Rigby と Caleb Parry という二人の人物（医師にして、農業改良家、慈善家）の公共活動を解明すべく関連情報の収集と分析を進めた。これにより、近代国家形成期のイギリスで公共政策を地域社会において担った人々の姿を浮かび上がらせることができた。

とりわけノリッジの Rigby のケースを中心に、慈善と農業に係る研究文献と史料を集中的に収集し、分析を進めた。一方、パースの Parry については、その農業改良へのかかわりと、慈善活動の詳細について、本研究期間の範囲では史料調査が完了していない部分が残った。これに関しては、追加調査の実施を含めて、今後の研究課題である。

また、中央政府や全国レベルでの慈善活動全般をめぐる議論と、同時期の他の都市の状況については、本研究期間の最終年度に集中的に調査し、個別の事例を時代文脈のなかで解釈する際に、それらを利用した。

##### (2) 国際研究交流

研究の全期間を通じて、海外の研究者との積極的な交流を実施した。2009年には、従来から緊密な協力関係にあった Joanna Innes 氏(Oxford 大学)をイギリスより招聘した。9月に来日した氏とは、単に個人的な情報交換を行うにとどまらず、公開ワークショップを開催して30名程度の参加者を得た。翌2010年9月には、研究協力者の Rosemary Sweet 氏(Leicester 大学)をイギリスより招聘し、研究交流を実現した。公開ワークショップを計3回開催し、いずれも30名程度の参加者を得た。2011年3月には、台湾の

イギリス史研究者である Chia-Chuan Hsieh (謝佳娟)氏(国立中央大学)を招聘してワークショップを開催し、有意義な討論を行った。また、謝氏と共に、学習院大学で開催された国際シンポジウムに参加し、研究代表者はそのうちの一つのセッションの司会を担当した。

これらの活動を通じて、当該分野に関心を持つ研究者や大学院生から幅広い意見や助言を得たことは、本研究を進める上で大変に重要であった。

##### (3) 中間的報告

研究の最終年度には、本研究のテーマをより長期的な時代文脈のなかに位置づけることを念頭に、「長い18世紀」全般の性格を検討するシンポジウムに参加し、研究動向と時代像についての報告を行った(5月、日本英文学会第84回大会)。さらに英国ケンブリッジで行われた第7回日英歴史学会議の部会(Urban history and heritage)で、都市の慈善基金とその意味についての研究報告を行った(9月)(渡英時には、本研究開始時からの協力者である Innes 氏、Sweet 氏との研究交流も実施した。)これらの口頭報告に対する質疑を通じて、本研究全体の成果を取りまとめるための方向性をより明確にすることが出来たといえよう。

本研究は、全体として、近代国家形成期のイギリスで公共政策や社会政策を実際に担った人々の活動を実証的に浮かび上がらせた。この点において、一定の成果があったと考えている。さらにこの延長線上で、公共政策における地方自治の範囲の問題、その担い手の立場の問題、公的部門と民間の諸活動の関係といった今日的なテーマや課題を考えるヒントが、歴史過程における具体例のなかから導き出せるであろう。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

1. Chikashi Sakashita, 'Endowed charities and changing ideas of public good in the English town, c.1750-1840', *History in British History: proceedings of the 7th Anglo-Japanese conference of historians*, (2013), (校正中のため頁は未定) 査読有

[学会発表](計2件)

1. Chikashi Sakashita, 'Endowed charities and the changing ideas of public good in

the English town, c.1750-1840', 7th Anglo-Japanese Conference of Historians: History in British History, 2012年09月13日、於 Trinity Hall, University of Cambridge

2. 坂下史「名誉革命史と「言論空間」の位置」、日本英文学会第84回大会(第三部門シンポジウム: 革命から政党へ—名誉革命前後の政治と文学)(招待講演) 2012年05月26日、於専修大学(生田キャンパス)

〔図書〕(計3件)

1. 坂下史『近代イギリスの歴史』(共著、木畑洋一、秋田茂編)、ミネルヴァ書房. 53-80(358) (2011)

2. 坂下史『イギリス史研究入門』(共著、近藤和彦編)、山川出版社. 104-127(408) (2010)

3. 坂下史『近代イギリスと公共圏』(共著、大野誠編)、昭和堂. 131-159(357) (2009)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

坂下 史 (Sakashita Chikashi)  
東京女子大学・現代教養学部・教授  
研究者番号: 90326132

### (2) 研究分担者

なし

### (3) 連携研究者

なし